情報界のトピックス

Topics of the Information Community

情報管理 54(4), 228-231, doi: 10.1241/johokanri.54.228 (<http://dx.doi.org/10.1241/johokanri.54.228>)

ミシガン大学がオーファンワークス（孤児著作物）特定プロジェクトを開始

ミシガン大学図書館の著作権事務所は、研究図書館の共同デジタルリポジトリHathiTrustコレクションに含まれる、著作権者不明のオーファンワークスを特定するプロジェクトの開始を発表した。HathiTrustが所蔵する作品の73%は著作権保護下にあるが、その中でオーファンワークスの占める割合はわかっていない。HathiTrustの事務局長John Wilkin氏は、コレクションの半数以上、すなわち250万点を超える作品がオーファンワークスであるとの概算を今年2月に発表している。今回のプロジェクトではまず、1923年～1963年に米国で出版された作品、特にミシガン大学の著作権調査管理システム（Copyright Review Management System: CRMS）によって著作権保護下にあると判断された作品が調査対象とされる。CRMSは10万を超える作品を調査したが、そのうちの45%が著作権保護下にあることが判明している。プロジェクトの第一段階は、最終的にはHathiTrustのパートナー機関も利用できるように、調査手順を確立することである。すでに、公に入手できる情報源を使用して、限定された数の作品についての調査が開始されている。調査の目的は、それらの作品がまだ絶版でなく入手可能であるかどうかを決め、その結果どのような問題に行き着くのかを確かめることにあることである。

(<http://www.lib.umich.edu/marketing-and-communications/news/mlibrary-launches-project-identify-orphan-works>)(accessed 2011-06-10).

Googleが新聞デジタル化プロジェクトを中止

Googleは、世界の新聞をデジタル化しオンラインで提供する新聞デジタル化プロジェクト、Google News Archiveを中止することを5月19日に発表した。このプロジェクトは、新聞を印刷体のままの形で、写真や広告も含めてデジタル化し、Google News Archiveのサイトで、検索やブラウズ機能を含めて提供するため、北米の出版社やProQuestとのパートナーシップの下に、2008年に開始されたものである。すでに2,000紙の計6,000万ページがデジタル化されており、この分についてはオンライン提供が継続され、検索も可能である。しかし、Googleは今後は新たなスキャンは行わず、新しい機能を加えることもしない。出版社側はデジタル化されたファイルを受け取り、制約なしに無料利用することができる。公共図書館では、これらのデジタル化された新聞はよく利用されており、特に歴史的な研究を行う人々にとっては不可欠な情報であるとして、残念がる声が上がっている。パートナーとして自社のマイクロフィルムを提供してきたProQuestは、Googleの発表の翌日にプレスリリースを発表し、デジタル化されたファイルを守り、保管するために今後も新聞社との協力を推し進めるつもりであることを明らかにし、歴史的なコンテンツにより多くの価値を加えるために参加するよう、出版社に呼びかけた。

(<http://searchengineland.com/google-shuts-down-ambitious-newspaper-scanning-project-77970>)

(accessed 2011-06-10).

米国議会図書館がMARCを変革か

米国議会図書館 (Library of Congress: LC) が、MARC標準 (MARC21) の漸次変革につながる可能性のある、書誌フレームワークの大幅な見直しに着手すると発表した。現在MARC標準に従ってコード化されているメタデータレコードの数は数十億に上る。米国議会図書館副館長のSally McCallum氏によれば、このイニシアチブの目標は、デジタルフレームワークを変革するのに必要な事柄を、技術変化と予算上の制約の観点から定めることである。氏は、「書誌情報にのみ焦点を当てるというのではなく、全情報資源界に図書館資源をリンクさせる方法を見出すことが極めて重要である。(中略) MARC標準が、私たちがしたいことすべてを行うために進化できるか、あるいは取り替える必要があるのかを決めることを、議会図書館は望んでいる」と述べている。いずれにせよ、議会図書館は急激な改変は考えておらず、MARCは少なくともあと10年程度は続けられる見込みとのことである。MARC以外にも検討される課題がいくつも挙げられているが、その中には以下のようなものがある。

- ・より広いWeb検索環境において、図書館のメタデータが最大限に再利用されるよう促す。
- ・Functional Requirements for Bibliographic Records, FRBR (書誌的記録の機能要件) のようなデータモデルの利用を探る。
- ・議会図書館の技術基盤内において、現行のメタデータを新しい書誌システムに移行するための計画を作成する。

(<http://www.loc.gov/marc/transition/news/framework-051311.html>)(http://www.libraryjournal.com/lj/newslettersnewsletterbucketacademicnewswire/890784-440/library_of_congress_may_begin.html.csp)(accessed 2011-06-10).

国連、政府によるインターネット遮断は「国際法違反」

国連は6月3日に発表した言論・表現の自由に関する報告書で、国家によるインターネット遮断が増加しつつあることを警告し、これが国際法違反に当たるとした。表現の自由に関する特別報告者を務めるFrank La Rue氏は、「個人が情報を即時に広めたり、組織を作ったり、不平等な状況を世界に知らせたりできるインターネットの独特の機能は、政府や権力者に恐怖をもたらしている」と述べている。中東各国では、2010年末から広がり始めた反政府運動に対抗する形で、政府が国内のインターネットを遮断するケースが相次いで発生している (エジプトについて本誌vol. 53, no. 12の本欄で既報)。

(<http://www.ohchr.org/EN/NewsEvents/Pages/DisplayNews.aspx?NewsID=11108&LangID=E>)

(http://www2.ohchr.org/english/bodies/hrcouncil/docs/17session/A.HRC.17.27_en.pdf)(accessed 2011-06-10).

新しいIP規格の試験を実施

6月8日、世界中のWebサイトが参加して、インターネットプロトコル (IP) の新バージョン「IPv6」のテストを行う「World IPv6 Day」が実施された。World IPv6 Dayは、IPv6への移行を進めるため、IPv6での試験的なサービス提供を行う時限実験イベント。Google, Facebook, Yahoo! などの呼びかけで開催され、インターネットに関する非営利組織インターネットソサエティ (ISOC) が支援した。日本時間では6月8日午前9時から6月9日午前8時59分まで実施され、MicrosoftやYahoo! Japanなども参加した。一部のインターネット利用環境では、この試験実施中にWebサイトが見られなくなる恐れがあったため、Microsoftはユーザーに対して事前に回避策を公表していた。6月9日現在、World IPv6実施中に大きな問題

は発生しなかったとされている。

現在使用されているIPv4は、技術としては安定しているが、策定されたのが1970年代と古いため、現在のような広範で大規模なインターネット利用は想定しておらず、サービスやネットワーク構築の面でさまざまな支障が出ている。またIPv4でのIPアドレスは約43億個しか用意されておらず、その枯渇が問題になっている。IPv6はこのIPv4に代わる新規格として策定されたもので、IPアドレスの数が無限に近くあるほか、IPv4にはなかったセキュリティ機能などを標準で搭載している。

(<http://www.v6pc.jp/jp/upload/pdf/WorldIPv6Day20110405.pdf>)(<http://googlejapan.blogspot.com/2011/06/ipv6.html>)(<http://www.kokatsu.jp/blog/ipv4/news/2011/04/ipv4-1.html>)(<http://www.microsoft.com/japan/mscorp/mic/interop/ipv6ie.aspx>)(accessed 2011-06-10).

「クラウド音楽サービス」とライセンス問題

ネット上で購入した音楽を自分のコンピューターではなくサーバー上に保管し、さまざまなデバイスから再生可能にする「クラウド音楽サービス」が相次いで発表されるなか、音楽のライセンス契約については対応が分かれている。Appleは6月6日、電子メールや写真だけでなく、ネットで購入した音楽もオンラインサーバー上に保管して楽しめるクラウドストレージサービス「iCloud」を発表した。これまでは、Appleの音楽配信サービス「iTunes」で購入した楽曲は、基本的に個別のコンピューター端末やiPodなどでしか再生できなかったが、iCloudのオンラインサーバーに転送すれば、ほかのデバイスでも共有することができるようになる。このサービス開始にあたって、Appleはレコード会社や、楽曲の権利を持つ音楽出版社とのライセンス契約を済ませたとされている。一方、Amazonは2011年3月、Googleは5月に同様のサービスをそれぞれ発表している（Amazonの

サービスについては、本誌vol. 54, no. 2の本欄にて既報）。しかしこの2社はAppleとは異なり、ライセンス契約を完了しないままサービス開始に踏み切っており、レコード会社などから問題視する声が上がっている。

(<http://www.apple.com/jp/news/2011/jun/07icloud.html>)(<http://googleblog.blogspot.com/2011/05/android-momentum-mobile-and-more-at.html>)(accessed 2011-06-10).

「朝日新聞デジタル」が創刊

朝日新聞社は5月18日、朝日新聞の電子版「朝日新聞デジタル」を創刊した。パソコンやiPad、Android OS搭載端末で、朝日新聞のニュース・コラム / 解説記事が読める有料サービスで、朝日新聞のほぼすべての記事を24時間リアルタイムで配信する「24時刊」、記事を編集して早朝に配信する「朝刊」、スペシャルコンテンツや情報を配信する「You刊」の3種類を配信する。デジタル版の料金は、新聞購読者は月1,000円、デジタル版のみの購読は月3,800円となる（2011年7月までは無料）。新聞の有料電子版は海外で先行的に創刊され、日本でも2010年3月に日本経済新聞が電子版を創刊している。

(<http://www.asahi.com/shimbun/release/20110518.pdf>)(accessed 2011-06-10).

「ミッフィー」をめぐる著作権訴訟、和解して被災地寄付へ

サンリオは6月7日、オランダの絵本作家、ディック・ブルーナ氏の知的所有権を管理するメルシス社（オランダ）との著作権・商標権侵害をめぐる係争で和解合意したと発表した。メルシス社は、サンリオの人気キャラクター「ハローキティ」の友達の「キャシー」が、ディック・ブルーナ氏が描いた「ミッフィー」に酷似していると指摘し、両社間で訴訟となってい

た。サンリオ、メルシス社、ディック・ブルーナ氏は3月11日に東日本大震災が発生した状況において、「訴訟を行うことにより費やす両社の諸費用をむしろ日本の復旧・復興のために寄付すべき」と結論し、和解を決定したとしている。両社は共同で15万ユーロ（約1,750万円）を義援金として寄付する予定。
(<http://www.sanrio.co.jp/corporate/release/detail/382>)(accessed 2011-06-10).

JASRAC, 被災地での著作物使用料徴収を中止

日本音楽著作権協会（JASRAC）は5月24日に開催した定例記者会見で、東日本大震災被災者への支援策を発表した。4月から9月までの6か月間、被災地域の飲食店などでの音楽利用について、著作物使用料の徴収を中止するほか、被災者支援および被災地復興のためのチャリティコンサートなどの催し物を無料許諾するとしている。

(<http://www.jasrac.or.jp/release/pdf/11052402.pdf>)
(accessed 2011-06-10).